

Q：好酸性細胞性腫瘍との鑑別を教えてください。

A：ご質問ありがとうございます。

今回の症例は、標本全体として腫瘍細胞が多く採取され、結合性が緩く不規則重積を示す集塊や異型の強い細胞が孤立散在性に多数出現しており、悪性を強く疑いました。また、好酸性細胞も多く出現しているため好酸性濾胞性腫瘍も鑑別に挙がりましたが、問題作成当初は、好酸性濾胞性腫瘍は濾胞構造が多少は認められるものという認識であったため、当症例には濾胞構造を示す集塊がほとんど見られないことから低分化な腫瘍寄りに推定していました。

この度、ご質問を機会に、症例を振り返って文献等検索し再検討いたしました。

- ・好酸性細胞型濾胞性腫瘍では通常の濾胞性腫瘍と比べて濾胞構造をとることが少なく、核が濃染傾向にあり、良性病変であっても少なからず核異型がある。

- ・好酸性細胞型濾胞癌では豊富な細胞量、不規則重積性の細胞集塊、明瞭な濾胞構造から充実性増殖するものまで多彩であるといった所見もあり、低分化癌の細胞所見とオーバーラップする点がある。

- ・一方、低分化癌の組織診断の組織診断基準である、充実性 (solid)、索状 (Trabecular) 島状 (Insular) 構造が細胞診標本上で見られた場合は、低分化癌を推定出来る場合がある。

- ・乳頭癌に定型的な核所見がみられず、脳回状核 convoluted nuclei (脱分化した乳頭癌の核所見で、乳頭癌の核よりも小さく、クロマチンは濃く、核内細胞質封入体はみられない)、核分裂像、壊死のうち少なくとも一つが存在した場合は、低分化癌を推定できる (トリノ提案に基づく)。

- ・一部の文献には、腫瘍細胞が孤立散在性に出現する傾向は好酸性腫瘍<低分化癌という所見もありました。

以上の点を踏まえると、今回の症例は問題に提示したフォトでの組織型推定は、好酸性細胞型濾胞性腫瘍と好酸性細胞型低分化癌を鑑別することは困難と考えられるようなので、解答に関しては好酸性濾胞性腫瘍も正解として扱うべきと考えております。